重要文化財　洞口家住宅

洞口家住宅は、敷地 1，500 坪以上、周囲は幅 3m の堀といぐね（防風林）に囲まれています。由緒については詳しいことはわかりませんが、古くから『たてのい』・『たてやしき』と呼ばれる旧家です。

主屋（母屋）は、平面が田の字型の四間取りになっているいわゆる名取型と呼ばれている名取一帯に古くからみられる特徴的な間取りで、座敷（客の間）と主屋の間仕切りがない桁行 12 間、梁間 6 間を有する旧仙台領内では大規模な農家です。

土間には太い柱が数本建ち、特に土間と座敷の境の真ん中にある復元された立派な独立柱は、この家の格式の高さを示しています。屋根は、茅葺屋の茅葺で棟瓦は石場瓦です。

建築年代は、前棟礼や茅縄の数、建築構造などから江戸時代の宝暦年間（1751～1763）と見られております。

なお、この住宅は主屋だけではなく、屋敷及び馬屋と表門（長屋門）も住宅の景観上重要な要素であるとして国指定の追加がなされています。

Ⅰ-13-①

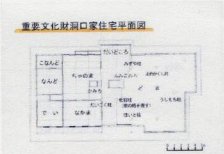
Ⅰ-13-⑤-a

Ⅰ-13-②

Ⅰ-13-⑤-b

主（母　屋）

Ⅰ-13-⑤-b



Ⅰ-13-③

Ⅰ-13-⑤-c

表　門（長屋門）

Ⅰ-13-⑤-c

Ⅰ-13-⑤-d

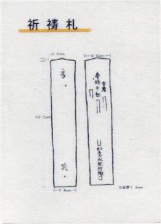
馬　屋

Ⅰ-13-⑤-d

Ⅰ-13-⑤-e

年　縄

Ⅰ-13-⑤-e



Ⅰ-13-④